

□清衡は「清原清衡」

鳥海柵の後の時代の話をしたい。考えてみると前九年合戦で安倍氏が滅びたが、次の後三年合戦では安倍氏を滅ぼした清原も、鎌倉幕府をつくる源氏方に滅ぼされてしまった。ある意味で、共通した面がある。

話の取っ掛かりとしては、平泉をつくった藤原清衡。彼が、平泉に移る前は清原という姓、「清原清衡」と名乗っていたあたりから、話を始めた。

清衡は、鳥海柵があつた前九年合戦の真っただ中に、藤原経清と安倍氏の娘の子として生まれた。安倍氏は前九年合戦で滅び、清衡の父親である藤原経清も、最終的には安倍氏側についていた

清衡からみて、敵方には再婚した母が生んだ異父兄弟がいたりと複雑な人間関係がある。興味がある方は系図など見ていただきたい。

□「後三年」の舞台

合戦そのものの舞台は、出羽側(現在の横手市周辺)で行われたとの記録が残されている。大きな決戦の舞台は、沼柵、金沢柵という二つの砦とも言える場所。

沼柵というのは、字通り周りを湿地で囲まれた天然の要害だったようである。記録によると、源氏軍は数千騎という膨大な軍隊で進軍したが、沼柵を攻めあぐね最終的に

ために殺されてしまつた。

その後、清衡の母親である安倍氏の娘は、清原武貞と再婚する。それに清衡は、母の連れ子として清原の一族に加わった。わずか7歳のころの出来事である。

前九年合戦が終わり、後三年合戦というのは約20年後ぐらいに始まる。清原氏は安倍氏を滅ぼした後、拠点のあつた出羽国(秋田県)に居続けたグループと、前九年合戦を契機に陸奥側に拠点を移したグループに大きく分けられる。後三年合戦は、この2グループによる清原一族の内紛が原因。

中は進んで行けなかつたんだろう。沼柵の正確な位置は分かつてない。ただ、横手市雄物川町に「沼舎城」という中世のお城がある。恐らくはその辺りではないかと思つてはいる。

沼舎城は、真つ平らで源氏軍が最後の決戦地でいる。その後、一度退却した

西沼の場所がどこかは分かつてない。恐らくその辺りだろうという場所は、現在横手市が「平安の風わたる公園」として整備している。そこには「雁行の乱れ」として残つてゐる。

ある金沢柵に移る。途中で一つエピソードがある。沼柵と金沢柵の間に西沼という場所がある。これもまさに沼とある通り、当時の合戦は馬による戦いであり、湿地の

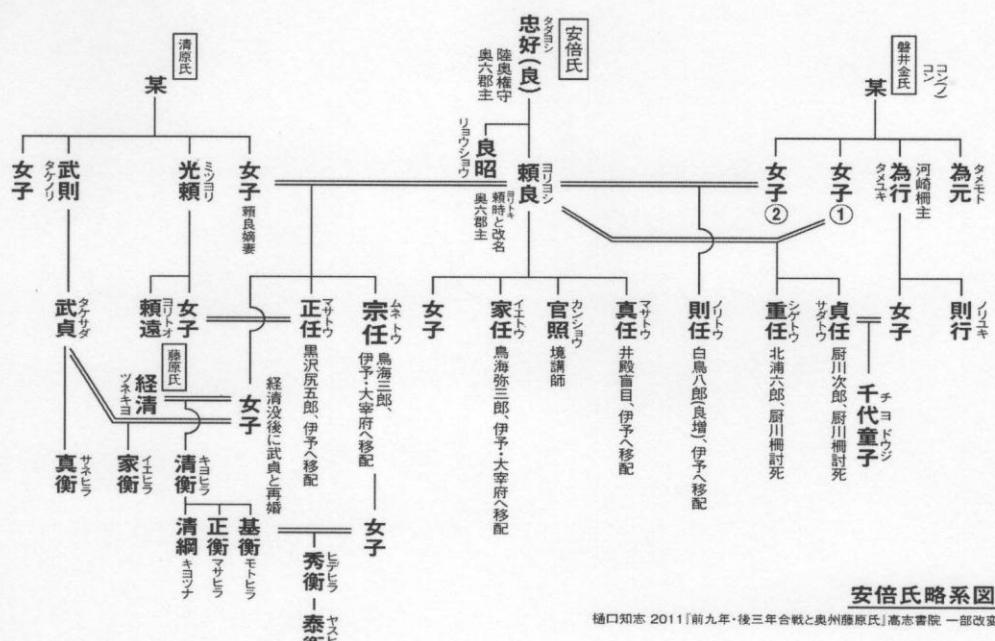
「後の時代」織り成す人間模様

鳥海柵を知る

8

高橋 学氏 (秋田県埋蔵文化財センター主任文化財専門員)

安倍氏から清原氏・藤原氏へ (上)



高橋知志 2011「前九年・後三年合戦と奥州藤原氏」高志書院 一部改変

ある金沢柵に移る。途中で一つエピソードがある。沼柵と金沢柵の間に西沼という場所がある。これもまさに沼とある通り、当時の合戦は馬による戦いであり、湿地の